

多数の転倒災害が発生しています！

別のスタッフが通路上に油をこぼしてしまっただが、当該油を拭き取る前に被災者がその上を歩き、足を滑らせて転倒。被災者は50代女性。

テーブル上の食器等を片付け、専用の容器に入れて運んでいたところ、床に落ちていたクリアファイルに気付かず、その上を歩いてしまい、足を滑らせて転倒。被災者は40代女性。

床面に落ちていた段ボールの切れ端を踏みつけたため、滑り、足を開脚した状態で転倒。股関節脱臼。被災者は50代男性。



厚生労働省：
職場の安全サイトより



滋賀労働局 各労働基準監督署（大津 彦根 東近江）

～ 働きやすい滋賀をめざして（労働災害ゼロ 業務上疾病ゼロへ）～

このリーフレットやゼロ災ロゴマークは 滋賀労働局HPからダウンロードできます。

http://shiga-roudoukyoku.site.mhlw.go.jp/jirei_toukei/anzen_eisei.html

転倒災害の特徴

職業生活を含めた一般生活の中で、転倒・転落が原因で亡くなる方は、交通事故で亡くなる方よりも多い（人口の動態調査より）。

転倒災害のうち、「つまづく」、
「滑る」が約80%を占めている。

年代別転倒災害発生割合

30歳未満：約5%

30歳～49歳：約30%

50歳以上：約65%

50歳以上の労働者から提出される、転倒に関するヒヤリ・ハット事例（仕事中、転倒しそうになった事例）に着目！

20代の労働者と比べると、平衡機能、薄明順応、視力、伸脚力、瞬発反応が低下傾向にあります。

ヒヤリ・ハット事例を収集し、労働者間で情報共有したうえ、対策を講じましょう。

転倒災害については
骨折の割合が約7割
休業1か月以上が約6割



STOP! 転倒災害
プロジェクト

厚生労働省・経済産業省・労働基準監督署

職場における転倒災害の要因

職場環境要因（モノ）

段差、障害物、床材、手すり、照明、天候など

服装・履物要因（モノ）

歩きにくい衣服、滑りやすい靴、つまづきやすい靴

管理的要因（モノ）

危険な作業箇所への放置、管理者の安全への無関心

身体的要因（ヒト）

加齢（平衡感覚、視力、視野、筋力等の低下）、一時的な心身機能の低下（疲労、睡眠不足）、病的要因

行動要因（ヒト）

よそ見歩行、手荷物保持歩行、会話歩行、慌て・急ぎ歩行
スマホをいじりながら、ポケットに手を入れながら・・・

転倒災害防止対策

床面の段差、すき間の解消。

段差等がある旨の注意喚起表示、照度の確保。

滑り止めマット等の設置。

転倒災害の発生原因を深堀
していますか？

4 S（整理・整頓・清掃・清潔）の徹底。

床面の油や水分等はすぐに拭く、資材等は床面に仮置きや放置せず、すぐに本来の場所に格納する等。

靴の見直し

滑り難い靴底の靴、軽い靴の導入。

ながら歩行の禁止

作業開始前の体操導入

通勤途中、作業開始直後といった、いわゆる「身体が起きていない状態」での転倒災害が多く発生しています。

厚生労働省：職場の安全サイトにおいては、健康体操の動画のほか、視聴覚教材等を多数掲載していますので、是非ご活用ください！